

## 記念物(史跡)



### おににわや じっそうじこふんぐん 鬼ノ岩屋・実相寺古墳群

国指定史跡（古墳）

昭和32年11月28日 指定（鬼ノ岩屋古墳群）

平成29年2月9日 追加指定（実相寺古墳群）

### おにのいわや ごうふん 鬼ノ岩屋1号墳

上人西町 別府市

1号墳は、平田川右岸の標高約32mに所在する古墳時代後期の円墳である。墳径16.5m、高さ6mの墳丘が残存し、内部主体は玄室・前室・羨道からなる複室構造の横穴式石室を呈する。石室内は多くの装飾が確認でき、特に前室側壁及び袖石などには下地にベンガラによる赤色を施し、その上から白色・黒色・黄色などの顔料を用い、連続三角文・円文・三角文・孤状文・S字状文などが描かれている。玄室には、遺体安置施設として石屋形が設置されるなど、県内の古墳では異彩を放つ。築造時期は、石室の構造などから6世紀末と推定される。

（事務局）

### おにのいわや ごうふん 鬼ノ岩屋2号墳

上人西町 別府市

2号墳は1号墳の南西約80m、標高約35mに所在する古墳時代後期の円墳である。墳径23m、高さ6mの墳丘が残存しているが、平成20年度の発掘調査により、墳径約37.5mの巨大な円墳であったことが確認された。内部主体は玄室・羨道からなる単室構造の横穴式石室を呈し、遺体安置施設として屍床を設置している。1号墳同様に石室内には装飾が施され、袖石及び屍床前面に双脚輪状文、蕨手文、同心円文、三角文、唐草文などがみられる。また、屍床前面には邪視文と考えられる2ヶ所の彫り込みがあるなどの特異性がみられる。石室構造などから、築造時期は6世紀後半と考えられ、県内同時期の円墳では最大級の墳丘規模を誇る。

（事務局）

### じっそうじこふんぐん 実相寺古墳群

北石垣 別府市

鷹塚古墳・太郎塚古墳・次郎塚古墳

天神畑1号墳・天神畑2号墳

市内北石垣の実相寺山東麓の標高約40～50mに所在する太郎塚古墳、次郎塚古墳、鷹塚古墳などの5基の円墳からなる古墳群。当初、昭和32年（1957）に発掘調査されたものを指定していたが、現在では古代遺跡公園とその周辺の古墳を指定地としている。

太郎塚古墳、次郎塚古墳は群の西寄りに2基接して所在しており、その南東約100mの位置に鷹塚古墳が所在している。鷹塚古墳は近年の発掘調査により、一辺25m前後の方墳であることが明らかとなり、南方向に開口部を持つ横穴式石室は、玄室規模は不明なものの、確認された羨道部のみでも県内最大規模であることが判明した。古代遺跡公園内には、家形石棺の蓋をはじめとして、多くの遺構などを移築復元し、社会教育の実資料として公開展示している。

（事務局）

